

令和6年9月17日(火)

開会 (9:55)

○坂上隆夫委員長

開会宣言。出席委員が9名で定足数に達し、会議が成立した旨、宣言。当委員会に審査を付託された案件は、「条例の一部を改正する条例」1件である。

議案の審査に入る前に、高橋副市長よりあいさつをお願いしたい。

○高橋副市長

おはようございます。議員の皆様には15日の敬老会に出席いただきありがとうございます。あの時の雨が累計で80ミリを超え、県道線胎内二王子公園羽黒線を通行止めにして対応したが、おそらく16日の朝に崩落があった。場所は胎内川ダムの上流200メートルぐらいの地点で、登って左側の法面が約400㎡崩落した。ヒュッテには東北大学のインドネシアの学生9人、登山者を合計すると山小屋の管理人等を含めて9人おり、リゾートの職員1名、奥胎内ダムの管理人1名がヒュッテで待機した。崩落により車で帰れず県の防災ヘリを要請し、当初は3回に分けて下りた。風倉ゲレンデの駐車場をヘリポートとし、最初4人、次に5人、後に5人と下り、その後下山した登山者で1回。その後1組の登山者が下山し、市役所に電話が入り防災ヘリに要請したが、既に日没で難しいとのことで、本日の午前9時に現地に行くという対応をした。これから紅葉シーズンを迎える中、道路及び法面の損傷があるか分からない状況で、復旧まで時間がかかると考えている。県と復旧に当たる事業者等々と打ち合わせをしながら、今後の対応について検討したい。ヒュッテには乗用車が5台あり、ヒュッテの荷物も降ろしていないので、食料品などもまだそのままという状況である。仮復旧を一旦行い、荷物が降ろせれば、冬支度をして降りることも考えなければならない。いずれにしても豪雨、災害に遭ったという状況を皆様にお知らせした。

本日は条例の改正1件だが、審議をよろしくをお願いしたい。

議第59号 胎内市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について

須貝総務課長説明

本件は消防団員の確保が困難な現状に鑑み、実情に即した定数の見直しを図るため、所要の改正を行うもの。具体的には、基本団員の定数630名から580名に減らす提案である。各

年度の新潟県市町村総合事務組合における消防団員等に係る各種負担金は、構成市町村の条例における前年度の10月1日現在の非常勤消防団員の定数を基準に算出されることから、施行日を本年10月1日から適用したい。

## 質疑

### ○八幡元弘委員

人数を580人にすることで、予算にはどう影響するか。

### ○須貝総務課長

予算は、各種負担金が前年度10月1日現在の定数条例によるため、今回改正したものは来年度の予算に影響する。1人当たり約2万円程度の負担があり、50人の減員で約100万円の負担金を減らすことができる。

### ○薄田智委員

団員の確保は全国的に大変だと聞くが、現在の630人に対し、どのぐらい充足率があるのか。また団員不足に対して市はどうか対応を取ってきたか。年々大きな災害が増えており、火災だけでなく自然災害にも消防団に出てもらおうが、そこに対する考え方は。

### ○須貝総務課長

市の消防団員の数は、他の市と比べ少なくはない。20市で言えば千人当たりの消防団員で比較すると上から8番目、真ん中あたりで、極端に少ないということはない。消防団員の確保はやはり全国的に懸案事項である。市はこれまでも消防団の行事の見直し、例えば操法大会も1日かかりを半日に抑えるなど、消防団員の負担軽減を考えている。ただ、訓練はしっかりしている。団員の報酬は令和4年度から改善してきた。現在の団員の報酬は他市と同様の額となり、県内の他市と比べても遜色ない報酬である。ホームページ等で消防団の活動を紹介し、自分達の町は自分達で守るという使命感の醸成を伝えるなどにより確保を進めたい。消防団の役割として、火災の活動は承知のとおりだが、災害など様々ある中で、やはり地域は消防団が見回り、例えば地震など地域の被災状況を消防団に依頼してパトロールし、報告してもらおうことを今年度段取りし、消防団より了承を得ているので、災害でも連携して取組みたい。

充足率は、90.3%である。

### ○薄田智委員

充足率で 630 に対して 90%、今回の下げる定数ぐらいであるが、いかに消防団への入団を促進していくか、真剣に考える時期ではないか。具体的に言えば女性団員を今以上に増やしていくにはどうすればいいか。あるいは若い人達、特に大学生が毎年入ってくる。他市町村では大学消防団というものもあると聞いており、その辺も考えては。方策を練れば団員も増えると思うため検討しては。

#### ○須貝総務課長

市には女性消防団員がいる。防災訓練の際にもご覧いただいた女性から、消防団員に興味があり教えて欲しいと連絡があった。日々の消防団の活動を紹介しながら、興味のある方を広げていきたい。消防団の充足は消防団幹部も懸案事項として認識しており、情報交換しながら、どのような取組みや方法が良いか十分連携を取りながら進めたい。学生消防団も他の市で取組んでいるため、そちらも参考にしながら学校と検討したい。

#### ○天木義人委員

年々若者が少なくなり消防団入る者がいない中、小さい集落は維持するのも大変だと思うが今後どうするのか。初期消火などでOBを活用できないか。若者は勤めで地域に誰もいないのでOBの活用を考えては。また、消防団で最高齢者は何歳か。

#### ○須貝総務課長

今の消防団の数は他市と比べ少ない方ではない。ただ、活動自体に支障が生じないように、消防団の組織改編を行っている。黒川、中条、築地、乙と4つ方面隊があり、火災があった場合に方面隊全体で対応する、足りなければ他の方面隊から応援するよう構成されており現状支障はない。ただ今後も人口減少で組織の再改変、再編も考えなければならないことは消防団幹部も承知しているので、今後も研究課題として考えたい。またOBの活用は、市では機能別消防団というものを組織している。過去5年以上の経験があり、消防団を退職された方で構成され、現在14名である。過去の経験、知見をいただきながら若者に伝承していくなどの活動をしており、今後も機能別消防団の充足を進めていきたい。

年齢は、実際の年齢データがないが61歳以上の方は現在6人である。

#### ○天木義人委員

新しく入らないからやめるにやめられないという小さい集落がある。その解消のために、別な方向で取組まなければならないと思うが。

○須貝総務課長

消防団の中で様々考えていることだと思う。若い人がいないから自分は退団できないというのも、現実的にそうだと思う。人口が少ない中で、消防団の活動を理解していただき、何とか若手を呼び込む、そこを考えていく必要がある。

## 自由討議

無し

## 採決

全員異議なく、可決すべきと決定。

(執行部退席 10:15)

以上で総務文教常任委員会を閉会する。

(10:16 協議会に変えて)

## 陳情の取扱い（1件）

私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書の採択を求める陳情書

○坂上隆夫委員長

内容は配付されている「私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書の採択を求める陳情」である。これは内閣総理大臣他への意見書の提出を求めるものであり、いかが取扱いをしたらよいか皆さんの意見を伺う。

○丸山孝博委員

内容から切実な問題であると思われるので、当委員会として採択することで取扱ったらどうか。

○坂上隆夫委員長

他に意見はないか。

(「なし」の声あり)

○坂上隆夫委員長

それでは、議員発議として取り扱ってよいか。

(「異議なし」の声あり)

○坂上隆夫委員長

発議議員についてどなたにするか。委員長指名でよいか。

(「異議なし」の声あり)

○坂上隆夫委員長

筧智也副委員長により発議提案することとし、皆さんには賛同議員として署名願う。

○坂上隆夫委員長

以上で総務文教常任委員会協議会を閉会する。

閉会 (10:19)